

3.1.7 施設・設備

【評価項目 13-0-1】 施設・設備等の整備（情報インフラを含む）

- （必須要素） 大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- （必須要素） 教育の用に供する情報処理機器などの整備状況
- （選択要素） 社会へ開放される施設・設備の整備状況
- （選択要素） 記念施設・保存建物の保存・活用の状況
- （KG1） 校地・校舎面積の状況
- （KG2） 資産・備品の管理状況
- （KG3） 教室の整備・運用状況
- （KG4） 視聴覚機器の整備・運用状況
- （KG5） 情報処理機器等の整備・運用状況
- （KG6） 研究室の整備状況（個人研究室、共同研究室等）
- （KG7） 研究所の整備・運用状況
- （KG8） 課外活動施設の整備・運用状況
- （KG9） 厚生施設の整備・運用状況
- （KG10） 体育施設の整備・運用状況
- （KG11） 学外施設の整備・運用状況（千刈、立山、戸隠等）
- （KG12） ネットワークシステムの整備状況

【評価項目 13-0-6】 キャンパス・アメニティ等

- （必須要素） キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況
- （必須要素） 「学生のための生活の場」の整備状況
- （必須要素） 大学周辺「環境」への配慮の状況

【評価項目 13-0-7】 利用上の配慮

- （必須要素） 施設・設備面における障害者への配慮の状況
- （選択要素） 各施設の利用時間に対する配慮の状況
- （選択要素） キャンパス間の移動を円滑にするための交通動線・交通手段の整備状況

【評価項目 13-0-8】 組織・管理体制

- （必須要素） 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況
- （必須要素） 施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況

<2003年度に設定した目標>

施設・設備については、大学および学院全体に関わる問題であるが、社会学部で設置および充実が可能な範囲で、以下の目標を掲げている。

1. 情報機器およびAV設備の充実と効率的な利用
2. 共同研究室、実習指導室、教材開発室、実験室、調査実習室の設備・機器の充実と効率的な利用
3. 建物内禁煙（別途喫煙スペースの確保）などによるアメニティの向上
4. 身体障がい学生のための設備・機器の充実
5. 設備・機器の管理体制の充実

（現状の説明）

1. 施設・設備等の整備

社会学部の施設としては、本館と準専用棟のE号館があり、本館には大教室（ともに500名定員）2室、パソコン教室（ともに35名定員）2室、演習教室（72名定員）1室および共同研究室、教材開発室、実習指導室、実験室、調査実習室などがある。またE号館には、演習室（30～50名定員）6室、小教室（50～70名定員）9室、中教室（120名定員）1室、合計16の教室がある。

教室のAV設備については、社会学部本館1号教室（500名定員）およびE号館104教室（70名定員）にプロジェクターを設置しており、さらに3台の可動式プロジェクターを事務室に準備している。本館2号教室（500名定員）についてもプロジェクターの設置を計画している。

情報機器については、パソコン教室（社会学部本館8号および12号教室）に、それぞれ35台（計70台）のパソコンを設置しており、3年ごとに機器のリプレースを行っている（最新は2004年）。また、E号館301および302教室には、無線LAN設備とノートパソコン（それぞれに15台）を設置している（201および202教室には、無線LAN設備のみを設置している）。

共同研究室（雑誌を主とする資料を管理し、学生の学習を支援する施設）には、パソコン3台、視聴覚機器1セット、コピー機1台、モバイルプロジェクター2台（2003年度1台、2004年度1台を設置）などの機器を設置している。

教材開発室には、サーバー1台、パソコン3台、学生貸出用ノートパソコン10台、視聴覚機器1セット、衛星放送受信システム1セット、カラーレーザープリンタ（2003年度設置）などを設置している。

実習指導室（社会福祉現場実習をサポートするための施設）には、対人援助技術習得用機器（ビデオカメラ2台、モニター1台、DVDレコーダー1台）25セット、パソコン2台などを設置している。

実験室（社会心理学実験のための施設）には、ポリグラフ1セット、赤外線映像システム1セット、テレメーター解析システム1セット、非接触眼球運動測定装置1セット、体温&GSRバイオフィードバック装置（2003年度設置）などを設置している。

調査実習室には、印刷機1台、コピー機1台を設置している。

2. キャンパス・アメニティ等

2004年度より、建物内禁煙を実施するとともに、社会学部本館出入口脇およびE号館出入口脇に喫煙スペース（灰皿の設置）を確保している。

また、学生のためのスペースとしては、社会学部本館1号教室前に、ベンチを設置している。

3. 利用上の配慮

身体障がい学生への配慮としては、リフト（社会学部本館）、エレベーター（本館・E号館）、スロープ（本館）、身障者用トイレ（本館・E号館）、専用控え室（本館）、救護室（E号館）などを設置している。

視覚障がい学生への配慮としては、点字表示や点字ブロックなどを設置するとともに、PCトーカーやWinリーダーといった文字を音声化するソフトをインストールした、視覚障がい者用のパソコン1台を設置している。

聴覚障がい学生への配慮としては、電磁誘導ループ装置を設置している。

4. 組織・管理体制

社会学部の施設・設備の組織・管理体制については、それぞれの管理担当者を配置し、学部事務室が統括して維持・管理している。

必要な設備の要求や計画については、各種委員会、学部執行部、学部教授会と学部事

務室が連携して、必要な予算措置を講じている。

また、共同研究室は実験実習指導補佐2名、教材開発室は同1名、実習指導室は実習助手4名が維持・管理しており、実験室、調査実習室を含めた5室については、「5室連絡会」（教員4名、院生会1名、教学補佐コンビーナー1名、事務3名、実験実習指導補佐2名）が必要な機器の補充などについて統括している。

（点検・評価の結果）

1. 情報機器およびAV設備の充実と効率的な利用

2004年度にパソコン教室の機器リプレースが行われ、情報機器の充実は、ほぼ円滑に進んでいる。また教室のAV設備の充実はやや遅れている（とくに社会学部2号教室）ものの、可動式設備により補っており、現在設置の計画が進んでいる。

2. 共同研究室、実習指導室、教材開発室、実験室、調査実習室の設備・機器の充実と効率的な利用

共同研究室（2003年度および2004年度）や実験室（2003年度）に新しい機器が導入されるなど、設備・機器の充実は、ほぼ円滑に進んでいる。また、共同研究室および実習指導室では、2005年度よりホームページを開設・公開することによって、より多くの学生が効率的に利用できるような配慮が進んでいる。

3. 建物内禁煙（別途喫煙スペースの確保）などによるアメニティの向上

2004年度より建物内禁煙（別途喫煙スペースの確保）が実現し、アメニティの向上は円滑に進んでいる。学生のためのスペースは、依然手狭のままであるが、これは、大学全体として改善に取り組まなければならない問題である。

4. 身体障がい学生のための設備・機器の充実

身体障がい学生、視覚障がい学生、聴覚障がい学生のための設備・機器の充実は、ほぼ円滑に進んでいる。

5. 設備・機器の管理体制の充実

管理体制は、それぞれの担当部署が責任をもって管理しており、全体の統括も円滑にすすんでいるが、全体を見渡した計画の立案などにおいて、やや遅れている面もある。

（改善の具体的方策）

情報機器およびAV設備の充実と効率的な利用については、とくに社会学部2号教室のAV設備の充実について、大学との協議を進めており、2006年度に設備工事を行うことが決定している。

共同研究室、実習指導室、教材開発室、実験室、調査実習室の設備・機器の充実と効率的な利用については、引き続き設備・機器の充実を進めるとともに、ホームページの充実と活用など、学生が利用しやすい環境を整備すべく努力している。